

「希望」と「支え」

在宅診療をしていると、たとえ残された人生の時間が長くないとわかっていても「希望」を持っておられる方に多く出会います。

おじいさんは病気を治すために入院して治療を続けてきましたが、残念ながら治す術がなくなってしまいました。そこでおじいさんは一つの「希望」をおばあさんに伝えます。「家サ帰ってマロンに会いてえ。」

「おじいさんを家サ帰してやりてえ。」はおばあさんの「希望」。

そこからおじいさんの在宅診療が始まりました。おじいさんの病状は日々悪くなってゆきました。食事が思うように取れなくなり、トイレに行くことも難しくなってゆきました。

ある時、おじいさんは僕にもう一つの「希望」を伝えます。

「センセ、オラ最期まで家でバアとマロンと一緒に居てえ。センセ、最期まで診てくれるか？」

「もちろんです。ところで、おじいさんの言う『マロンさん』ってどなたですか？」と僕。「怖がって隠れてんだ。ベッドの下サいたべ。」とおじいさん。

ベッドの下に隠れていた三毛猫がマロンでした。

おばあさんとマロンの思い出話をするおじいさんは、残された人生の時間が長くないことはわかっていただろうけれど優しい笑顔で穏やかでした。

数日後、おじいさんはおばあさんとマロンと共に穏やかに自分の家で生き抜かれました。おばあさんはおじいさんの手を握り、マロンはおじいさんの布団の上で丸くなっていました。みんな穏やかでした。

僕がおじいさんとの在宅診療の中で学んだこと。

おじいさんの「希望」を叶える為には、おばあさん、マロンの存在という「支え」が必要だったこと。

「希望」と「支え」があると、たとえ治らない病気があったとしても穏やかに生きられるということ。

たとえ治らない病気であったとしても、おじいさんは最期までおばあさんとマロンの「支え」であったこと。

僕たちのまわりにある「希望」や「支え」を大切にしたいものですね。



大好きな猫と一緒にいていいんだよ

コロナ禍、家族との面会もままならない入院もありましたよね。高齢者施設へおじいちゃんに会いに行つたのに、別室でリモート面会という話も聞きました。最後は愛猫と過ごしたい・・・その「希望」と「支え」は在宅医療を選ぶことで叶うかもしれません。



飲み込み難しいから病院では無理と言われたラーメンも好みの硬さで食べていいよ。

居間から見える向山の姿が好きなんだ。この声になる前はいい声で歌ったんだよ、

いつもそばにカセットテープの入ったラジカセ。

このベッドの上から、働くおじいさんの姿が見えるから安心なのよ。具合悪くなったら私が電話して助けてあげるよ。

お酒で乾杯したいな、いいよ！でも医療用麻薬で痛みとっているからノンアルにしようね。

温泉行きたかったな。初夏なのに冷たくむくんだ足のおじいちゃんの希望を聞いた孫が温泉の入浴剤持ってきて足浴させた。



願いをかなえられる自宅での最期を迎えるということ。



わかりやすい説明、注意が必要な薬の保管方法、飲めなくなった時の提案、効果と副作用の観察、点滴準備や無菌調整、医師へ言いにくい相談、気のおけない雑談はおまかせください。私たち薬剤師は医師、訪問看護師、ケアマネージャー、かわる方々と共に「望む場所で穏やかに生活する」を支えます。



はやせ薬局  
薬剤師 谷地 千明

はやせ薬局

〒028-0521 岩手県遠野市材木町2-28  
TEL.0198-63-2155 FAX.0198-60-1270

初めて来る方でも停めやすい駐車場。Airdogによる清浄された空間でスタッフ一同笑顔でお迎えいたします。手作りの健康教室にも是非おこしく下さい。

